

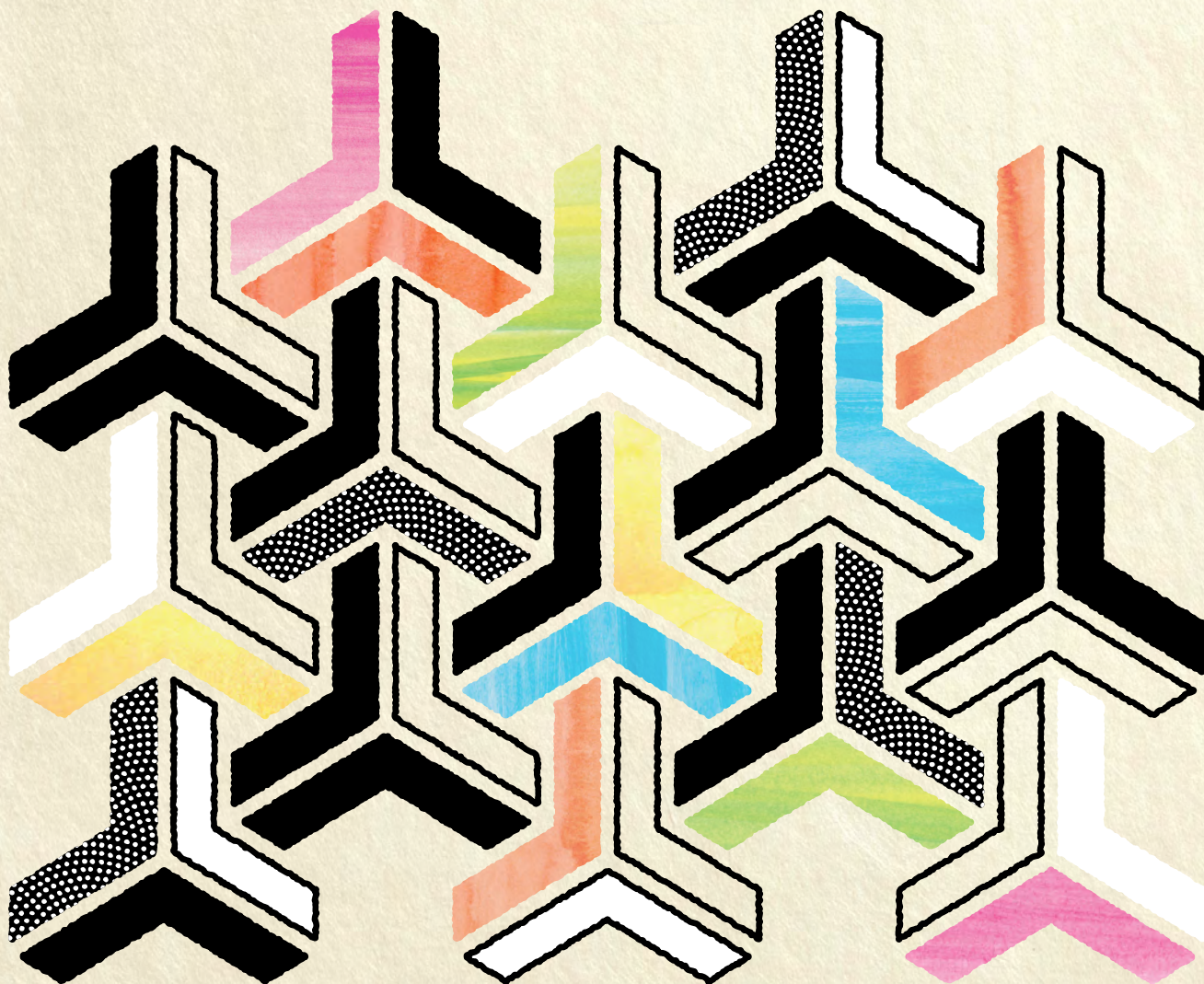
書写からひろがる, まなび, 暮らし

line

線

Special Feature

書写の用具に 親しむ。



本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ!

Special Feature

書写の用具に親しむ。 03

これからの国語を考える

「語彙指導」と書写指導 連載 第三回 06

甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授 尾崎靖二

書写のココが知りたい!

Q. 学年はじめの書写の授業はどのようにしますか? 08

宮本榮信

特集

卒業制作に向けて 10

神戸女子短期大学幼児教育学科教授 山内有香子

指導のミカタ

書写学習のスタンダードを確立しよう 12

岡山市立灘崎小学校教諭 宮本毛登明

書写力向上宣言

「筆使いの動画集」をご存知ですか? 14

やすみりえの五・七・五紀行

第三回 神奈川県 横浜市に行く 15

やすみりえ

目指せ! 文房四宝博士 ③

鈴鹿墨 三重県 鈴鹿市 18

伝統工芸士により守られ進化する 後世に伝えたい墨の可能性

連載 第十二回

コンドウアキの書写的生活 20

コンドウアキ

COVER design ART WORK

日本の伝統文様



【組亀甲】くみきっこう

びしゃもんきっこう
毘沙門亀甲を網目が出るように組んだ文様。亀甲は、
古くから伝わる長寿延命の吉祥文です。また、毘沙
門天の甲冑の柄を由来とする毘沙門亀甲やその変形
の文様には、戦勝・必勝の願いも込められています。



書写の用具に

親しむ。

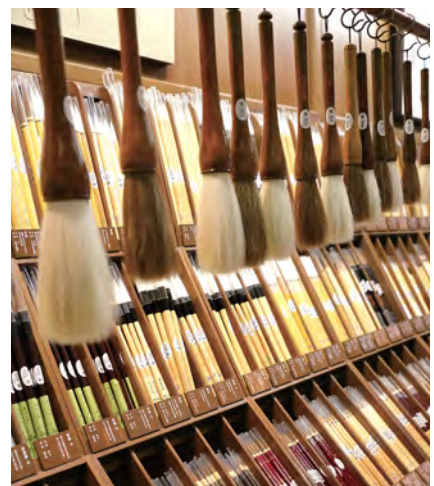
日本文化と深いつながりをもつ書写。なかでも書写の用具は、文房四宝だけでなく、古くから愛用されているものが多様に揃います。そこで、今回はさらに奥深い書写の世界を知るために、専門店の「京都鳩居堂」を訪ねて、書写・書道の用具についてお話を伺ってきました。

自分好みの用具を集めて 書写・書道の世界に魅了される

書写でなじみの深い用具といえば、筆・墨・硯・紙といった文房四宝が思い浮かびます。しかし、日本古来より使用されている用具は、他にもたくさんあることを知っていますか。『京都鳩居堂』を訪れると、普段使いの手ごろな用具から、書道家が愛用する本格的な用具まで、様々なものが揃っていました。小学校の授業でおなじみの基本的な用具だけではなく、少し本格的な用具を使ってみることで、新たな書写の世界を知ることができるかもしれません。

まずは、書写の用具を揃える心得をお店の方に聞いてみると、「無理をして高価な用具を揃える必要はまったくありません。初心者なら小学生と同様に、千円前後の筆からおすすめしています。次に買い替える際には、ステップアップして、よいものに変えてみて、使い勝手の違いを実感してみてください。そうやって体感することにより、用具の良し悪しや、自分にとって最適な用具がわかるようになります。」

京都鳩居堂の店内には、二百種類以上の筆が並ぶ。天然の獣毛で作られる筆の価格帯は、素材によって幅広い。



書写の用具は、初心者だと知識も乏しく、何を選べばいいのか迷いがち。いざ店を訪れるとためらってしまうことも。

「文字を書く用途に合わせる事が大切ですが、品質やデザインは自分の好みで選べばいいと思います。まるで洋服を選ぶような感覚で、自分の世界観を作っていくのも楽しいもの一つですから。美しい硯箱を手に入れて、そのなかに、一つずつ宝物を増やすように、道具を揃えていくのがおすすめです。」

伝統的で重厚なものから、和のかわいい意匠のものまで、産地や素材違いだけでもバリエーションは豊富。そのなかから、自分の趣向に合った用具を手に入れたら、書写の時間そのものが魅力的に感じられるはずです。

お気に入りの道具を使って、はがきや手紙を送ってみましょう。パソコンの文字よりも、手書きの文字は、気持ち伝わるものです。文字を書くことの素晴らしさを、書写の用具を通して感じることはできます。

趣向を凝らした用具で、書く環境を自分好みに。



筆架

【ひっか】

筆を乗せかけておく台。
筆を置きやすい波型のものが多く、
素材は陶器や木など様々。

水差し

【みずさし】

硯に水を注ぐときに使うもの。
水滴、水盂、水注などがあり
用途に合わせて大小のサイズが揃います。



硯箱

【すずりばこ】

硯や筆、墨、水差し、文鎮などを入れておく箱。
オリジナルの書道セットを作るような気分で、
用具を集める楽しさがあります。



印材

【いんざい】

できあがった作品に押印する
「落款」のもとになる石材。
落款には、名前や雅号などを彫ります。
角型、楕円型、丸型など、形は様々。

書写・書道の用具を通して
物を大切にすることを養う

基本的な用具の次に持つておきたい用具は、筆を置く台の『筆架』、そして、硯に水を注ぎ入れる『水差し』など。普段なじみのない用具かもしれませんが、名前の呼び方は覚えておきたいものです。

また、書写の授業で使う『文鎮』は金属製のシンプルなものが多いですが、動物や植物がモチーフになった文鎮や、漆器の美しい意匠が施された文鎮など、見た目にユニークなものもあり、気軽に手に入れやすい用具だと思います。重さが肝心なので、使いやすいかどうかを手にとって確かめるようにするとよいそうです。

用具は、手入れをすることで長く使うことができます。例えば筆なら、使い終わったら、墨を落として風通しよく保管するだけで、状態はよいぶん変わってくるものです。乱雑な扱い方をすれば、どんなによい用具でもすぐに傷んでしまいます。用具を大切にすることで、物を大切にする心を養うことも、書写の重要なテーマといえるでしょう。

墨床

【ぼくしょう】

墨を磨った後に置いておく台。
陶器製のものも多く、
金属や木などで作られたものもあります。



墨池

【ぼくち】

墨液を入れるだけで、すぐに使うことができる便利な道具。
ちょっとした手紙を書くのに、小さなサイズは重宝します。

文鎮

【ぶんちん】

漆器の美しいデザインから、木やガラスなど、
多彩なデザインが揃う文鎮。
書く紙のサイズに合わせた小さな文鎮もあります。



筆掛

【ふでかけ】

筆を用いて保管するためのもの。
筆を洗って穂先を下にして干すと、
水が根元にたまらず腐食も防げます。



DATA

京都鳩居堂



- 住所：京都市中京区
寺町姉小路上ル下本能寺前町 520
- 電話：075-231-0510
- 営業時間：10:00～18:00
- 休日：日曜（祝日の場合は営業）



葉書

【はがき】

季節の便りや礼状など、
日常生活に取り入れやすいのが、はがきのよいところ。

「語彙指導」と書写指導

連載
第三回

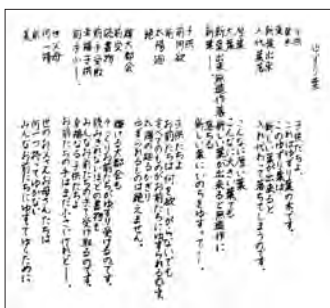
前回の中学年では、語彙指導を日常的な質の高い言語活動とどのように結びつけるのかを実践例をもとに提案した。

今回は、作品のなかの語彙に着目して高学年での実践を書写指導との関連を考えて提案してみたい。

1 作品を構成する語彙

漢字の「べた書き」

まず、ノートを上下二段に線で区分しておく。上段は狭く、下段は広くする。上段には作品で使用されている漢字だけを抜き書きする。それを眺めているだけで、作品がイメージ豊かに浮かんでくる。



次には、空けておいた下段に作品を見ないで漢字を辿って再現していく。できあがったら比べてみて、自分がつた作品世界と原作との差異を楽しんで感想を書く。

漢字が語彙としてもつ意味の広がりや深さを、一連の言語操作によって気づくことができる。

詩などは、簡便にできる

ので子どもたちは面白がって取り組み、効果的だ。書写の指導事項との関連は、用紙全体との関係や文字の大きさや配列、特に漢字と仮名の大きさや配列に注意して書くことにある。

2 一段一語

この学習活動は、大阪府の北河内地区を中心として広く行われた歴史をもつ。しかし、元は日本のペスタロッチとして多くの教師の尊敬を集めた芦田恵之助先生の実践を参考にさせていただいたものだ。

四十年前程前、私は「雨読の会」という研究会で仲間と共に『芦田恵之助先生の教壇記録』（注1）を学習していた。そのなかに、昭和九年二月十日に日本女子大学附属高等学校一年東組で行われた薄田泣蓮作「探幽と松平伊豆」を教材としたご授業の記録があった。

そこで、子どもの主体性を重んじた一段一語という学習に出会い、その実践化を提起した。その方法とは、次のようなものだ。

形式段落ごとに、自分が大事だと思う言葉を皆書いてみる。三語でも五語でもよい。そして、一語に絞る。ノートに横に一線を引いて、それを形式段落に区切って一語を書いていく。芦田先生は、「上の線が文章で、下の一段一語はお庭の飛び石のようなもの」と解説されている。これを予習の課題としても与えられている。

私たちは、子どもたちにノートに段落番号とその下に自ら選択した一語を刻みつけるように丁寧に書かせた。この作業そのものが作品の内容や構造を把握する理會に大きな力を発揮した。

そして、その一段一語から作品の展開構造や往還構造、反復構造等を捉えさせ、作品に対する思いや考えを表現様式に合わせて記述させた。

この取り組みは、当時の恵雨会会長の故吉田俊一先生（元守口市立橋波小学校長）にお褒めをいただき、そのお陰で北河内各市にも広がっていった。

3 説明文基本語彙一覧表

これは学習基本語彙の発想から作品で使用される語彙に着目して単元のなかで活用するものだ。指導目標や表現様式に沿って様々な一覧表が作れる。

ここでは、観察報告の説明文の「読むから書く」へのプロセスで有効に機能する説明文基本語彙一覧表を示す。この一覧表は、指導目標に合わせて語彙の範囲を「考えるための言葉」（思考語彙）と「観察・実験のための言葉」（観察語彙）の二種類に絞って教師の方で作成した。作成に際しては、既習の説明文の使用語彙や類語辞典を参考にした。

子どもたちは、この一覧表を傍らに置いて説明文を読んでいく。基本語彙を見つかる度に種類に応じて本文にカラーリングしていく。この言語操作だけでも、「あつ」とか「く」になっている。」と、次々に色を塗りながら発見をしていく。

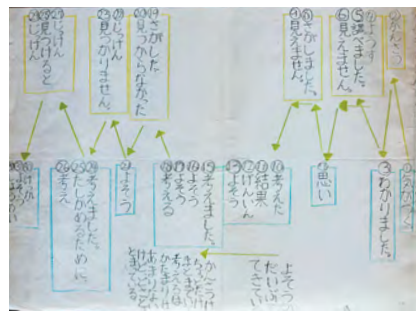
語彙の連鎖（注2）を見つけたときには、筆者の工夫と説明文の奥深さに感心していた。

これらの発見の感動をもって、二種類の言葉を画用紙を使って上下二段にまとめる。上段は観察語彙、下段は思考語彙だ。

この作業の際には、構造が見えるように筆記具を色鉛筆やマーカーにしたり、適切な文字の位置や間隔にしたりして後の思考操作がスムーズにいくように工夫することが求められる。ここに書写の力が欠かせない。

完成した図は、子ども自らが作成したワークシートであり、説明文を語彙だけの構造体に変換したものに なっている。

この図から、先のカラーリングのとき以上に子どもたちは様々な発見をする。



思考語彙と観察語彙が往還して、何度か繰り返すなかで高まったり、それぞれの語彙が連鎖しながらも塊となつて展開して深まったりしていくことを指摘する。

学習活動を進めていると、子どもたちは次の課題である「観察報告文」を書くことに自ずと移っていく。語彙が「お庭の飛び石」のような役割を担い、子どもたちの記述を誘うのだ。即ち、「今、観察文ができました。」と口頭で作文を発表しだす(注3)。

この構造図は、内容に関わる語彙(基調語・話題語句)が除かれ、汎用的な語彙(基幹語・説明語句)のみで構成されているので、「観察報告文」を書くモデルとなっていたのだ。

4 物語表現紹介事典

一人の作家の描写の語彙を把握する言語活動だ。高学年といえば、宮沢賢治の名が挙がる。その魅力の一つが独特の言葉遣いや造語と思われる語彙の数々であろう。

まずは、紹介のために宮沢賢治の作品を十編読ませる。一番好きな作品を選ばせ、用紙にあらすじと挿絵と「上手く書いているところ」の三つの要素を記述させた。この用紙は、あらすじは野線で、「上手く書いているところ」は引用の必要があるのでマス目の原稿野で構成した。ここでも書写の力が支えとなる。各自の用紙を学級でまとめて、冊子にして交流をした。

次に、交流で得た観点(描写のうまさ)を中心に「やまなし」を含むファンタジー作品三点を重ね読みして共通点と相違点をまとめた。

この学習活動を通して、作品の描写の語彙を捉える観点を五つに整理した(①自然 ②会話 ③例え ④音 ⑤分からない言葉)。

子どもたちは、三十一編の賢治作品を読み進めていき、観点ごとに表現紹介を記述した。そのなかからグループで理由の明確なものを学級で冊子にまとめた。



冊子をもとに、表現、理由、作者宮沢賢治の三つについて交流した(注4)。

2 図解を支える語彙(注5)

1 人物相関図

高学年になると人物の相互関係を捉えることが心情を考える際にも重要になる。人物を捉える語彙(属性・性格・行動・心情等)が相互にどう成立しているのかを図解する。文字の大きさや位置、色、図との関係等、書写での指導が生きてくる。

2 作品の構造図

「大造じいさんとガン」では、単に題材レベルで捉えるだけでなく、問題レベルで考えるために構造を図解することが有効だ。おとりを巡って、残雪・ハヤブサ・大造が対置する場面。図解することで作品の中にある構造(作用)を確認することに連続して子どもたちが発見する構造を書き込んでいくことが可能になる(注6)。

3 作品を通した学習内容の図解

学習の振り返りをシンキング・マップやツールを使って図解によってキーワードを整理する。振り返りの時間が、単なる感想の羅列で終わっている現状がある。学習内容の整理ができていないのは、的確な感想など生まれない。知識の定着のためにも不可欠と考えられる。当初は、教師が与えたマップを使って語彙を整理するが、次第に学習した複数のマップから適切なものを選択してまとめるようにする。学習過程や獲得した知識・技能が整理される。その整理を踏まえて感想を記述することでより主体的な学習となる。

※「図解を支える語彙」が十分展開できていない、別の機会に譲りたい。

- 注1 芦田恵之助先生鈴木佑治先生教壇記録と講話いずみ会一九七八年
- 注2 「思った↓理解した↓決心する↓願っている等」作品の中で語彙が変化して連なっていること
- 注3 実践国語研究NO131 明治図書一九九三年
- 注4 実践国語研究NO147 明治図書一九九五年
- 注5 新学習指導要領「情報」の扱いに関する事項」には、「図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」が取り上げられている
- 注6 実践国語研究NO118 明治図書一九九二年

尾崎靖二



甲南女子大学教授・交野市教育委員。教育委員会指導主事、四條畷市・交野市の小学校長、中央教育審議会教科別専門部会(国語)委員、学習指導要領解説「国語編」作成協力者等を歴任。二〇〇七年度、第三十八回博報賞受賞・文部科学大臣奨励賞受賞。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

Q. 学年はじめの書写の授業はどのようにしますか?

新しい学年になって、はじめての授業。

「この学年でどんなことを学ぶのかな。」

「むずかしいかな。」

「新しいことって、どんなことを学ぶの。」

「自分ではできるかな。」

子どもたちは、期待とちよつぱり不安な想いでむかえます。

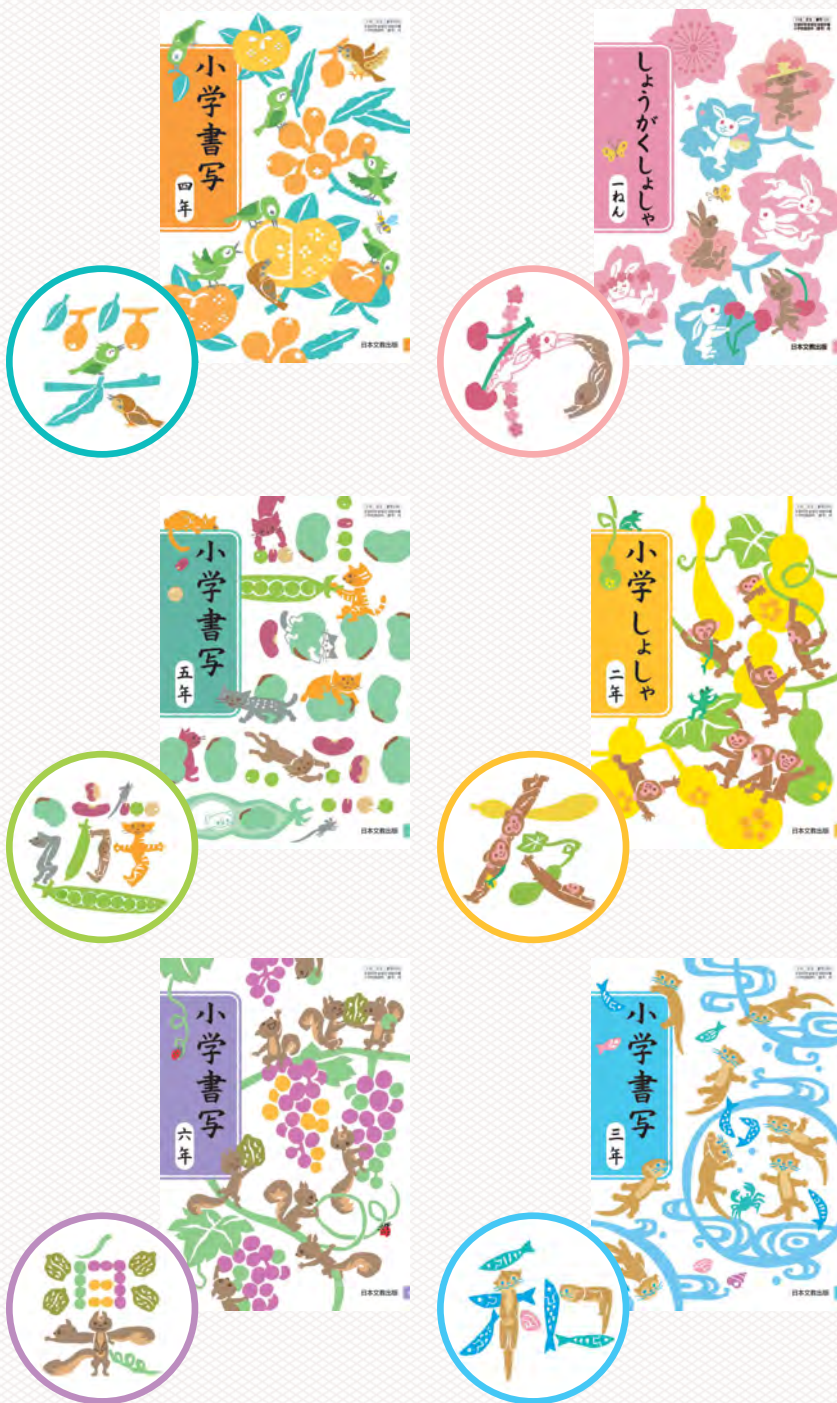
こんな素朴な子どもたちの気持ちにこえて、その教科の学びの方向と、かまえてを自覚させるのが、授業のスタートであると思います。

そして、その手がかりになるのが教科書です。教科書との出会いをどのようにするといいのか、書写の場合について考えてみましょう。

1 表紙に込められたメッセージを

新しい教科書を手にしたとき、まず何に注目しますか? 表紙ですね。「日本文芸出版」の書写の教科書の表紙は、イラストレーター森さんのデザインによるものです。表紙に込められた森さんの想いを紹介します。

日本の文字を、ひと筆ひと筆、心をこめて書いていく書写の授業は、いつの時代も私たちにとって、日本の文化に正面から向き合う大切な時間です。表紙の絵では、そんな書写の教科書にふさわしいよう、昔から日本にいた動物たちと、伝統的な模様を組み合わせ、いろいろなパーツからひとつの文字ができる様子を楽しく表現しました。動物や模様の一部などが集まってどんな文字ができたかは……裏表紙を見てのお楽しみです。



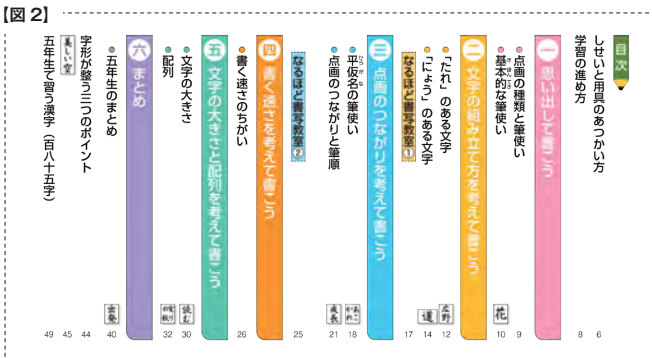
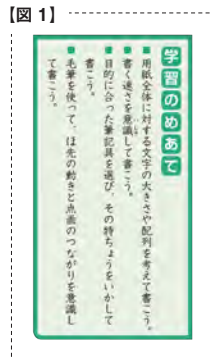
ひとつの文字がたくさん線の線や点から成り立っているように、人間も理解しあい助けあうことで人の和が生まれます。日本の心と助けあう心、両方の「和」の心を胸に、のびのび楽しそうな表紙の動物たちのように、皆さんも楽しみながら書写に親しんでください。

「線Line」教科書特集号(二〇一四年五月一日発行)より一部抜粋

表紙の絵を見ながら、このような森さんのメッセージを感じとる対話の場を設定すると、書写の学びに一層心がはずんでくるかも知れません。

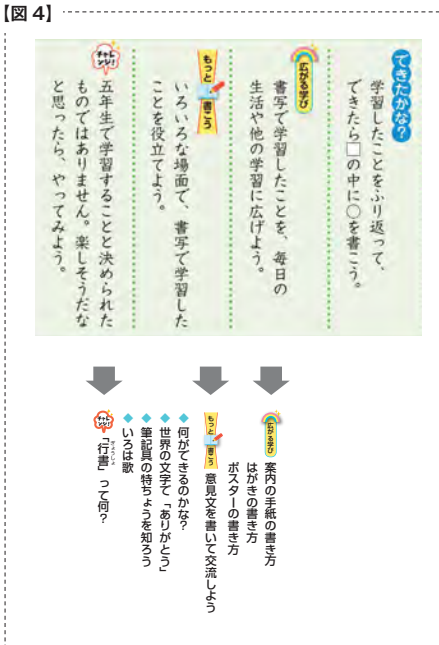
2 一年間の学びを見通す

五年生の教科書の表紙をめくると「学習のめあて」が示されています。【図1】この「めあて」を、子どもたちにも読ませてみましょう。読むということは、五年生で学ぶことを、目と頭と心で確かめることにつながります。



そのときに、新しい言葉（用語）に注目をします。例えば、「用紙全体に対する文字の大きさ」「書く速さ」

「目的に合った筆記具」「ほ先の動きと点画のつながり」などです。これからの用語に着目することで、「前の学年で学んだこととちがうんだな。新しいことを学んだな」と



いう意識をもちます。そして、「目次」に内容を結びつけて、一年間の流れを見通します。【図2】

3 教科書の見方・使い方を

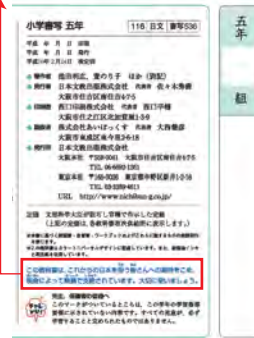
教科書は、子どもたちが学べるように工夫して編集されています。ですから、教科書の見方や使い方を知っていると便利です。表紙の裏の頁には、「マークの説明」としていろいろなマークが示されています。【図3】「考える」「確かめる」「いかす」というマークは、学習を進めていく道しるべです。つまり、文字を整えて書くためのコツをつかみ、それを書くことによって確かめ、さらに、他の文字を書くことに活用するという流れです。

また、学習の自己評価をしたり、学んだことを生活のなかや、他教科の学習のなかで発展的に取り組んでいく内容を示したりしたマークもあります。【図4】それに、キャラクターとして、「パンジー」「ショパン」が登場させています。これは、それぞれの教材のなかで、文字の原理・原則を考え、気づくためのサポートの役目をしています。【図5】このようなマークで示された内容について確かめるのも、学年はじめの学習の一つです。

4 学ぶかまえを

すべての教科書の裏表紙には、小さい文字で、次のような言葉が掲載されています。

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



昭和三十八年（一九六三年）より、小・中学校の教科書が無償で配布されています。新しい教科書を受け取るたびに、自分の学びが日本人の人人たちから支えられ、応援してもらっているという気持ちをもつことがとても大切であると思います。

日本の文字を正しく整えて書く学びのかまえを確かめながら、自分の名前を丁寧に書かせたいものです。学年はじめの書写の授業のひとこまです。

みやもと ぼくどう
宮本 榮信（墨童）
 元千早赤阪村立千早小学校校長。「墨童書道会」主宰。大阪府教育委員会指導主事。大阪府内の公立幼・小・中の校園長。大阪府小・中学校書写教育研究会会長などを歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

特集

卒業制作に向けて

より素敵な卒業制作を仕上げるために、
実践しやすいアイデアを二つご紹介します。

神戸女子短期大学幼児教育学科教授
山内有香子



卒業制作

1

はんこを作ろう!

書画に印を押す習わしは、中国の元代にやわらかい石材が見つかったことから始まったとされています。石で作るのは難しいですが、消しゴムを使えば、誰でも短時間に自分だけのはんこを作ることができます。

白と黒しかない作品のなかに赤い印が一つ入るだけで、作品としての魅力が倍增します。また、自作の新聞の著名欄に押したり、新学期の目標を書いた横に押ししたりと、様々な場面で活用する楽しみもあります。



用意するもの

◆ 消しゴム

(長方形のものを半分に切ると作りやすい)

◆ 鉛筆 (6Bなどの濃いもの)

◆ 彫刻刀またはカッター

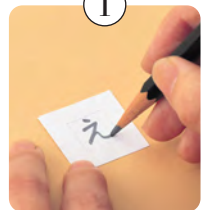
◆ 朱肉

◆ 上質紙



作り方

①

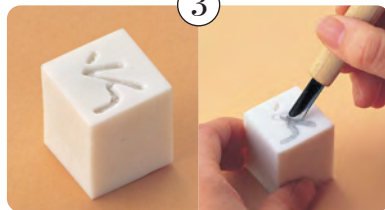


消しゴムの大きさに合わせて枠を書き、そのなかに彫りたい文字を書く。

②

枠に合わせて上から印面を押しつけ、文字を写す。

③



消しゴムに写した文字を、彫刻刀できれいに彫れば完成。
※彫刻刀の扱い方に気をつける。



印の周りや角を少し丸めたり削ったりするとより雰囲気が出る。

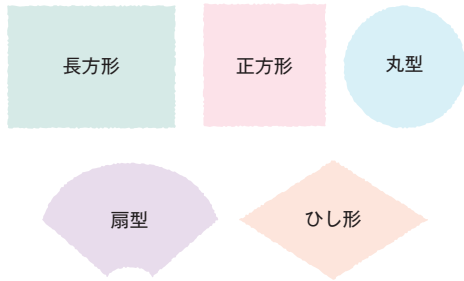


文字の周りを削り取る方法もある。



2

紙を選んで書こう！



用紙の例

あらかじめ用意した色紙や短冊に書くのも緊張感があっていいものですが、書き直しはできません。納得のいく作品にするためにも、書き慣れた半紙に書いたなかから一枚を選んで作品にする方が意欲も高まります。

まず、書く言葉を選び、練習します。当然、仕上げる作品の大きさを考える必要があります。また、書く文字の字形や文字数に合わせて、丸形、正方形や長方形、あるいは菱形や扇形などの用紙を選ぶことも、学びの一つとなります。これらすべてがこれまで積み上げてきた書写の力を発揮する場になるでしょう。



作り方



③ 色画用紙などの台紙に貼って完成。



① どんな言葉を、どんな筆記具で書くかを考えて、用紙を選ぶ。

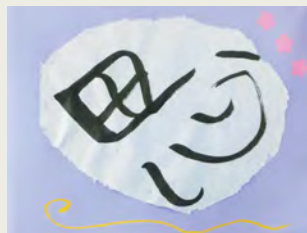
② 書写で学習したことに気をつけて、選んだ用紙に言葉を書く。

書写から発展して作品作りを

余裕があれば、台紙を工夫することでさらに素敵な作品にすることもできます。

〔例〕

- ① 台紙の形や大きさを変える。
- ② 台紙に絵やデザインを施す。
- ③ 飛び出す仕組みを使って立体的にする。



マスキングテープを使って作品を貼ったり、千代紙を利用して模様をつけたりするなどの手軽な方法もあります。子どもたちの自由な発想をいかした楽しい制作の時間になることでしょう。

書写学習のスタンダードを 確立しよう

岡山市立灘崎小学校教諭
宮本毛登明



子どもが楽しみながら、書写学習を意欲的に進めていくためには、書写の時間のなかで、学習の流れの定型を確立する必要があります。単位時間に、どんな学習活動がどの順番に組まれていき、自分の力を伸ばすためにどうすればいいか、見通しをもって学習に臨めるようにすべきです。第四学年の「ひらがなの筆使いを学ぼう―むすび（はす）」の実践を紹介します。

1 準備から試し書きまで

まず、授業のなかに準備と片付けの時間を位置づけます。始業前には、毛筆用具をケースのまま机の上に置き、作品ばさみを机の横にかけておきます。チャイムと同時にあいさつをしてから、二分で準備します。

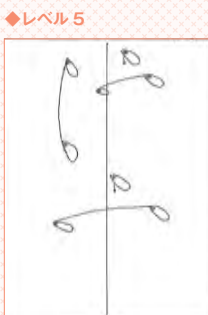
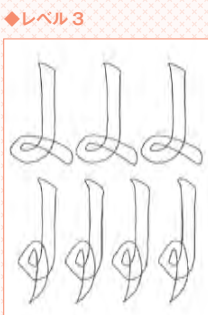
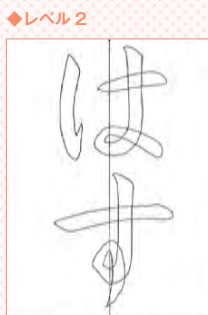
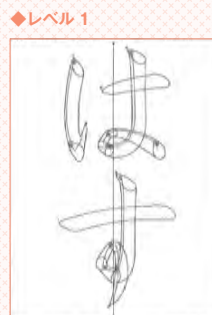


準備ができてから、課題を知らせて試し書きに入ります。二期ともなれば、試し書きが終わるまでで五分です。

2 めあてと 基準をつかむ話し合い

試し書きが終わったら、教科書を開き、試し書きと比べます。その間に拡大文字を掲示し、話し合いに入ります。うまくいかなかったことからめあてにつなげます。このときは「結びがうまく書けなかった。」と予想通りの反応だったので、「結びを上手に書くコツを見つけてよう。」というめあてにし、基準を見つける活動に進んでいきます。子どもたちが見つけた基準を拡大文字に書き込んでいきます。





3 練習タイムの工夫

基準を確認できたら練習タイムです。練習用紙は何パターンか用意が必要。そのなかから子どもが選んだり、だんだんレベルアップしたりして、意欲をもたせます。練習の途中に範書（もしくは筆使いの動画）が入ることもあります。机間指導して、ほめることもとっても重要です。目安として十分間。しかも子どもたちが、もっと練習したいと思っているところで打ち切ります。

4 まとめ書きとふり返り

もう一度、めあてと基準を確認して、まとめ書きをします。書き終わった子から、筆や硯の片付けをある程度します。

全員のまとめ書きが終わったら、試し書きとまとめ書きを見比べてのふり返りに入ります。ペアトークしたり、みんなで共有したりして、子どもたちの伸びをクラスみんなで喜びます。



最後に時間がわずかでも、今日の学習が生かせる他の文字を考えることを忘れずに組み入れます。

5 時間配分は大事です

ご紹介してきたように、準備と試し書き五分、話し合い十分。練習十分、まとめ書きとふり返り十分。片付け五分。残り五分は余裕時間に位置づけておくのがいいと思います。

準備や片付けの時短は、学年始めの繰り返し練習がどうしても必要だと思えます。話し合いの時短は、子どもたちが書写用語を使って基準を見つけて発表する力をつけることが必須となります。

そのため、書写用語はカードにしておいて、毎回、意識して使えるようにしています。

教科書の指導書や、この「線Line」の前号までに紹介された工夫は、試しています。フェルトで作る筆先くんやスポンジをカットする筆先くん、チョークの粉を水で溶く色つき水書などなど。どれも子どもたちの興味と理解を手助けしてくれるのを実感しています。

スタンダードを確立し、いろいろなアイデアをちりばめた授業は、子どもたちも、そして教師側も楽しい時間です。



「筆使いの動画集」をぞくぞく知ですか？

「小学書写 教師用指導書」付属DVDに収録されているデジタル教材には、様々なコンテンツがあります。今回は、そのなかから「筆使いの動画集」について、三・四年用DVDを例にご紹介します。

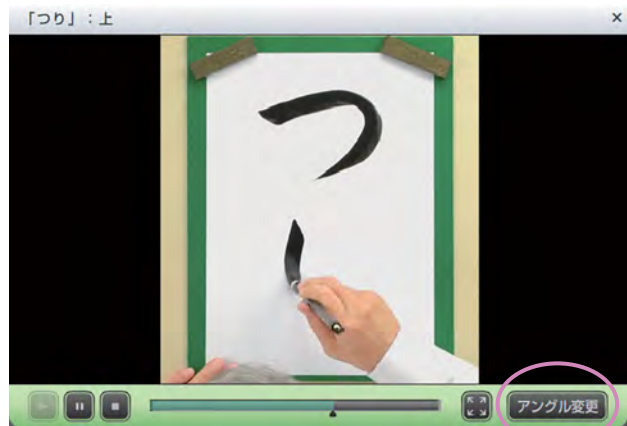
「筆使いの動画集」とは

「筆使いの動画集」は、「小学書写」教科書に掲載されている毛筆教材の映像資料集です。基本点画や部首のほか、三・六年で学習する全毛筆教材の筆使いが収録されています。

筆使いの動画は全て、「真上から」と「斜め横から」の二種類のアングルがある

ります。目的に応じてアングルを使い分けると、児童の学習への理解を深めることができます。

また、動画はループで再生されるほか、一時停止することも可能です。例えば、練習時間にループ再生しておけば、子どもたちが筆使いをいつでも確認できたり、一時停止で瞬間を切り取って、教材として提示できたりします。



真上から

文字の大きさや配列を確認する際に便利です。

ボタンを押すと、アングルをスムーズに切り替えられます。

斜め横から

筆圧の変化などを確認する際に便利です。



現場の声にお応えして

教室に電子黒板がない！

示範をして見せるための準備や片づけて時間がない！

筆使いの動画だけをすぐに見たい！

そんな先生方からの声にお応えして、筆使いの動画は、DVDプレーヤーでも再生できるようにしています。ディスクをDVDプレーヤーにセットすると、左のようなメニュー画面が表示されます。



にあるテレビ画面で、気軽に動画をご覧いただけます。

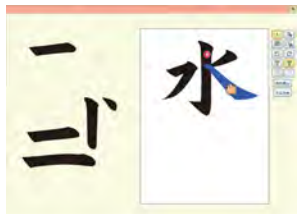
デジタル教材と同じ動画を再生することができます。



収録動画一覧

筆使い	各学年の毛筆教材			
	三年	四年	五年	六年
筆圧チャレンジ、横画の筆使い、たて画の筆使い、おれの筆使い、左はらいの筆使い、右はらいの筆使い、はねの筆使い、点の筆使い、曲がりの筆使い、おれの筆使い、そりの筆使い、「つ」の筆使い、「し」の筆使い、むすび(横長)の筆使い、むすび(たて長)の筆使い、そりの筆使い、右上はらいの筆使い、「へ」の筆使い				
	「心」の筆使い、「之」の筆使い、「水」の筆使い、「し」の筆使い、「糸」の筆使い			
横画	(一)	基本的な筆使い (光)	基本的な筆使い (花)	基本的な筆使い (泉)
たて画	(土)	画の方向と間 (麦)	「たれ」のある文字 (広野)	「かまえ」のある文字 (仲間)
おれ	(日)	(名作)	「によう」のある文字 (道)	三つの部分の組み立て方 (湖)
はらい	(人)	筆順と字形 (左右)	(前進)	(街)
はねと点	(小山)	左右の組み立て方 (林)	平仮名の筆使い (あこがれ)	点画のつながりと筆順 (飛ぶ)
曲がりとおれ	(ビル)	(土地)	(なでしこ)	配列 (夕やけ雲)
そり	(心)	上下の組み立て方 (岩)	点画のつながりと筆順 (成長)	(温かい心)
曲がりとはらい	(つり)	(竹笛)	文字の大きさ (読む)	文字の大きさと余白 (名月や…)
三年生のまとめ	(水玉)	むすび (はす)	配列 (実りの秋)	六年生のまとめ (創造)
		文字の大きさ (白馬)	(わらべ歌)	(友情)
		(世界)	五年生のまとめ (出発)	(永遠)
		四年生のまとめ (平和)	[発展] (読書) ※楷書 (読書) ※行書	(思いやり)

デジタル教材には、「筆使いの動画集」のほか、毛筆教材の「点画ピース」や、平仮名・片仮名の「書き順アニメーション」など、指導に役立つ様々なコンテンツがあります。



ぜひご利用ください！

やすみりえの五・七・五紀行

第三回

神奈川県横浜市に行く



神奈川県 横浜市

神奈川県を中心都市である横浜市。東京湾に面していることから、まず思い浮かぶのは港町のイメージではないでしょうか。その昔海外との交流が始まるきっかけとなった神奈川開港をはじめ、西洋文化往来の影響があちこちに色濃く残る街でもあります。

今回、横浜市を訪れた目的は、この街をテーマに川柳を詠むということ。横浜は、奥深い歴史文化から美しい港町の景色まで、川柳を考えるためのインスピレーションにあふれています。



川柳の句が思い浮かぶのは、ふとした瞬間。考え込むというよりは、何かを感じ取って言葉にしていこうという手法が多いかもしれません。

今

回は横浜の観光名所を訪ね、見たことや感じたことをもとに川柳を詠んでみました。

その場で浮かんだ言葉をメモしたり、句の材料になりそうなものを見つけたりしながら歩いたのですが、これを「吟行（ぎんこう）」と呼びます。川柳だけでなく、俳句や短歌でも折に触れて取り入れる。作品づくりを楽しむ時間「のひとつ。外に出掛けて行います。場所は風光明媚なところを選ぶ場合もあれば、日常生活の息づく場所の時もあるんですよ。

もちろん一人でも、お仲間とでも吟行はできます。

いつもの街歩きや旅と違うのは、「句の目線」を常に持ちながら過ごすこと。それによって、何気ない風景や人の出会いも、いっそう深く味わえるようになるから面白いものです。今回は、完成させた句を直筆でしたためてみました。拙い文字でお恥ずかしいですが、この日の思い出の詰まった色紙としてご紹介させていただきます。

横浜赤レンガパーク

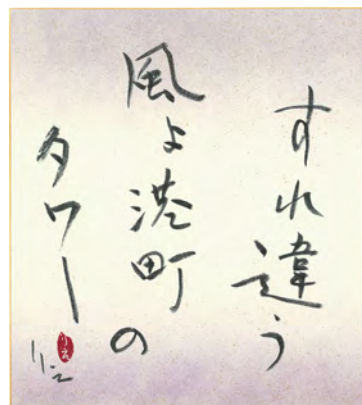
心 地良い秋晴れのもと、まずは赤レンガ倉庫のあたりから散策開始。ふわりと吹く風に、心も自然と軽やかになっていきます。そんな「風」を一句にしたいと思いました。歩くうちに横浜マリントワーも見えてきて、私を出迎えてくれているように感じるから不思議です。



DATA

横浜赤レンガパーク

- 住 所 神奈川県横浜市中区新港1-1
- アクセス みなとみらい線馬車道駅下車徒歩5分



横浜中華街

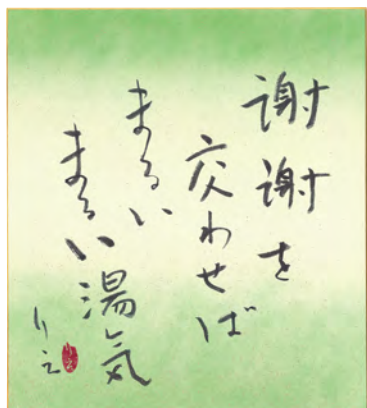
横 浜といえば中華街。今日もこのルートは外せません。建物や看板の色彩やかさに包まれて、異国情緒たっぷりです。ここでは、お店の人と交わす言葉も「ありがとう」ではなく、「谢谢」がびったり。ほら、中華まんも心もほかほかです。

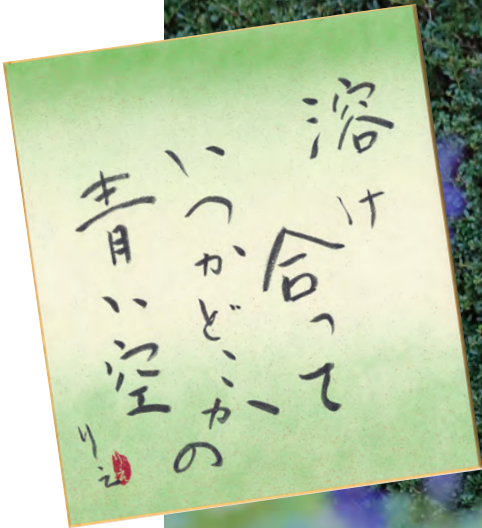


DATA

横浜中華街

- 住 所 神奈川県横浜市中区山下町付近
- アクセス みなとみらい線元町・中華街駅下車徒歩1分





山下公園

海 の向こうに広がる青い空。 いたいどこまで続いているのか、 想像するのも楽しいですね。

ずっと飽きずに眺めていると、過去や未来へも繋がっているような感覚になります。 “溶け合う”のは、空の青い色だけでなく、さまざまな想い。それを柔らかな雰囲気の一語に仕上げてみました。



DATA

山下公園

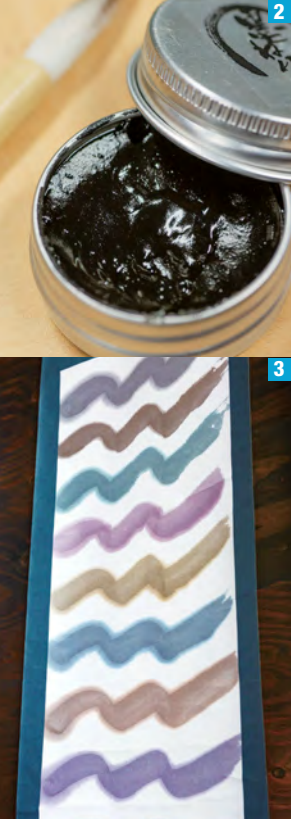
- 住所 神奈川県横浜市中区山下町279
- アクセス みなとみらい線元町・中華街駅 下車徒歩3分

やすみりえ



川柳作家。神戸市出身。恋を詠んだ作品が幅広い世代から支持されている。多数の公募川柳の選者・監修を務める一方で、子どもたちへの川柳教室やワークショップを開催。文化庁文化審議会委員。(一社)全日本川柳協会会員。

1業界で初めて考案された色墨やキラキラ光るラメ入り墨。濃く磨った墨を水の度合いを調節しながら好みの色に表現できるので、オリジナリティを発揮でき、絵手紙や水墨画などの創作に重宝します。2進誠堂の新作は墨ねり。磨る必要がないので場所を選ばず、手間をかけずにささっと書けます。3灰色は雪、茶色は地、緑色は樹、赤色は花…など、ネーミングも素敵な色墨は現在8色展開。



鈴鹿墨

(三重県 鈴鹿市)

伝統工芸士により守られ進化する
後世に伝えたい墨の可能性

目指せ!
文房四宝博士

3

三重県 鈴鹿市



発色がよくなめらかな書き味の伝統工芸品である鈴鹿墨。日本初のカラフルな色墨や一分で磨れる墨を独自で開発する、鈴鹿墨唯一の職人である伊藤親子の工房&ショップ「進誠堂」を訪れ、墨の魅力に迫ります。

最高級原材料の産地であり、鈴鹿山脈から流れる水により墨づくりに適した鈴鹿。その起源は一二〇〇年前と伝えられ、鈴鹿の山に自生する松を燃やし、煤(すす)を集めて作ったとされています。一九八〇年、墨では唯一となる国の伝統工芸品に指定された鈴鹿墨は、発色がよく上品で深みがあり、基線(きせん)とにじみが美しく調和することが特徴で、書道愛好家に親しまれています。

かつては五十人以上いた鈴鹿墨の墨職人。墨液の登場などによる墨の需要の低迷によって、現在は進誠堂の三代目伊藤亀堂氏と四代目晴信親子のみとなりました。その親子が今、鈴鹿墨の伝統を絶やさなため、墨や書道のよさを再認識できる製品を手掛けるなど、業界の常識を覆す挑戦を続け、国内外から注目を集めています。



456すべての工程が手作業で行われる墨づくり。まずは、材料の煤や膠、香料を手で混ぜ合わせ墨玉を作成。7墨玉の重さを計って、棒状の木枠の型に20分程度入れて形を整えます。重さは15〜110gまで様々。8その後、灰の中で5〜30日、空気中で2〜6ヵ月乾燥させ、さらに3年以上寝かし彩色したら完成です。

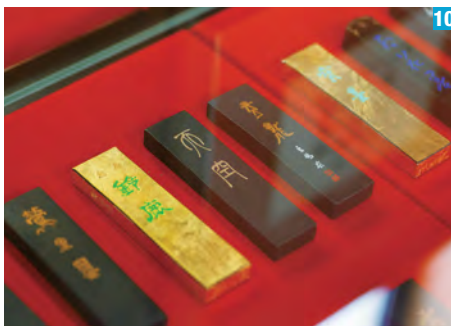


12



11

12 独自に開発した1分で磨れる墨、すずか。



10



9

墨づくりの作業は膠（にかわ）を変質させないために、気温の低い十一月初めから四月の早朝に行います。松や竹などを燃やした煤と、接着材としての役目をもつ動物の皮や骨などを煮込んで固めた膠、香料を混ぜ合わせ、粘土のような墨玉を作り、木型に入れて成型します。そこから灰の中や空気中で乾燥させ、そして梅雨明けまで藁で編んで最終乾燥、さらに、三年以上寝かされた墨に油葉（ゆうやく）を塗り、彩色を施して完成させます。この工程を一人の職人が一貫生産するというのも鈴鹿墨の特徴の一つです。煤の割合などで色合いやにじみ方を変えることができますので、使う人のニーズや細かな要望に合ったものを作り出すことができ、その種類はなんと三百以上も揃います。

墨職人として唯一、伝統工芸士として認められている亀堂氏は、日本初となる、鮮やかな色が出る八色の色墨を考案。水や色を混ぜ合わせれば自由な発想で無限の表現ができるとあり、書道家だけでなく、絵画アーティストや染料家、建築家など多くの人に愛される革新的な墨へと発展しました。また、自身の子どもがまだ小学生だったころ、書写の授業を見学すると全児童が墨液を使っていたことに大きなショックを受けた亀堂氏。そこで生み出したのが、たった一分で墨が磨れる墨「すずか」。限られた時間のなかで磨れ、しっかりと墨色が出るうえ、筆を洗い忘れても穂先が固まらず筆を傷める心配がありません。そんな試行錯誤の末、今では鈴鹿市の多くの小学校

で、鈴鹿墨が使用されるようになってきました。

晴信氏に墨液と墨の違いを聞いてみると、「墨液は手軽ですが、多くの化学物質が使われているため筆の傷みが早いです。それに比べ、自然由来の成分で作る墨は筆に優しいのはもちろん、文字を柔らかく書け、乾いた後に文字が浮き出て味が出ます。また、香料を入れておいて磨っている間に心が落ち着き、精神統一できるのもよいですね。毛筆用具は筆なら原料は獣毛、半紙は植物、硯は石：など天然の素材で作られているので、身体に害がありません。こういう道具を子どものころから使うのは心身ともによいことだと思います」。手入れや保管方法については、「墨は高温多湿が苦手です。墨の磨り口は水分をふきとり、箱の中にしてください。水分が少しでも残っているとヒビ割れの原因になります。」と、注意が必要です。

地元の高校の書道部とのコラボイベントをはじめ、進誠堂では墨の可能性を追求すべく、建築用に黒塗料を開発したり、墨で染めた革製品を作ったり、地元和菓子屋さんコラボをして墨入りクッキーを作ったりと、創意工夫で書道に縁のない人でも墨を手にとってもらう活動を行い墨の魅力を発信しています。

「墨は書けば書くほど姿形が消えてなくなりませんが、書いた文字は後世まで残せます。」と、晴信氏。代々守り継がれてきた伝統とさらなる可能性を広げて進化する墨一つ一つに、匠の細やかな配慮と繊細な技が宿っています。

DATA

有限会社 進誠堂



- 住所：三重県鈴鹿市寺家5-5-15
 - 電話：059-388-4053
 - 営業時間：9:00～16:30
 - 休日：土曜、日曜（予約があれば営業）
- ☆鈴鹿市伝統産業会館にて、第2・4日曜に、鈴鹿墨の製造実演を実施中。



15



13



14

13 15 基線とにじみの調和が特徴の鈴鹿墨は、書道愛好家にファンが多数。14 好みの模様をオーダーすることもできます。

連載
第十二回
コンドウアキの
**書写的
生活**

ポスターなどの掲示物は、多くの人に見てもらいたいもの。そのために、どんな文字が読みやすいか、どうすれば目を向けてもらえるかなどを考えて書きます。自分が書いたポスターを見て、たくさんの人に来てもらえること、喜びもひとしおです。



コンドウアキ
キャラクターデザイナー・イラストレーター・作家。「リラックマ生活」シリーズのほか、「うさぎのモフィ」、「みかんぼうや」シリーズなど著作多数。文具メーカー勤務を経てフリーとして活躍する傍ら、一児の母として育児に奮闘中。

Produce:STORE Art Direction & Design:ad detective QUEST

line 線

2019 No.12

日文教育資料[小学校書写]

平成31年(2019年)1月31日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

題字・新谷泰鵬

CD33424

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690